

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891700110
法人名	医療法人社団 淡路平成会
事業所名	グリーンホーム北淡
所在地	兵庫県淡路市小倉154番地
自己評価作成日	令和6年1月30日
評価結果市町村受理日	令和6年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】
 経験豊富な10年以上のスタッフが9割を占めており、利用者様の生活をサポートさせて頂きたいです。ユニットとして利用者様の個々にあった適切な介護サービスの提供し利用者様のペースを大切にし希望に沿って対応している。・電子カルテにて日々の記録など全ての職員が周知できるようになっています。東浦平成病院と連携を図り情報交換し、往診、外来受診を行い身体状況の悪化されてもすぐ対応できるようにしています。皮膚科、眼科受診等専門外来受診が必要となった場合は家族様から難しい場合はできる限り施設側で対応している。生活機能向上・維持の為、協力介護施設より理学療法士と連携し、入所者様の個別に応じた機能訓練の実施。地元のお店や施設との交流を図り住み慣れた地域での生活を支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.hyogo-kaigo.com/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和6年2月25日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1.ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2.利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3.利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4.ほとんど掴んでいない
57	利用者や職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:1,8,38)	<input type="radio"/> 1.毎日ある <input type="radio"/> 2.数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3.たまにある <input type="radio"/> 4.ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1.ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2.利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3.利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4.ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1.ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2.利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3.利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4.ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1.ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2.利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3.利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4.ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1.ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2.利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3.利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4.ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1.ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2.利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3.利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4.ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1.ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2.家族の2/3くらい <input type="radio"/> 3.家族の1/3くらい <input type="radio"/> 4.ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1.ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2.数日に1回程度 <input type="radio"/> 3.たまに <input type="radio"/> 4.ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1.大いに増えている <input type="radio"/> 2.少しずつ増えている <input type="radio"/> 3.あまり増えていない <input type="radio"/> 4.全くいない
66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1.ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2.職員の2/3くらい <input type="radio"/> 3.職員の1/3くらい <input type="radio"/> 4.ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1.ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2.利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3.利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4.ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1.ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2.家族等の2/3くらい <input type="radio"/> 3.家族等の1/3くらい <input type="radio"/> 4.ほとんどできていない

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】 介護福祉士資格をもつ職員が多く自立支援の視点を大事にし日々支援に取り組んでいる。電子カルテ導入による業務効率化への環境整備。医療連携：東浦平成病院との医療連携が図れている。
 【工夫点】 身体拘束および虐待防止委員会を設置し定期的な研修会を開催している。地域ケア会議へ参加し専門職とのネットワーク作り繋がっている。管理栄養士や理学療法士から月1回アドバイザーを得る機会を設けている。

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己評価	第三者	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	民生委員の方と運営推進会議で施設・地域課題について情報共有を行い施設として地域とのつながりを作っている。利用者様が地域へ出ていくイベントを定期的開催しながら作りを作っている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念に基づき理念の具体策として民政委員の方と運営推進会議で施設・地域課題について情報共有を行い利用者様が地域出ていくイベント等を行い共有&実践に繋げている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	外出支援で、利用者様の希望をお聞きし地域の商店(スーパー、和菓子店など)へ出かけるイベントを定期的開催しています。運営推進会議の開催に民生委員の方に多数参加いただいております。施設・地域課題を共有しております。	外出支援で、利用者様の希望をお聞きし地域の商店等へ出かけるイベントを定期的開催し、又運営推進会議で多数の民生委員に参加頂き施設や地域課題を共有し事業所自身が地域の一人として日常的に交流しているが最近では冬場でもありつき合いも少なくなっている。
3	(3)	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際には地域の人に向け医療や福祉について情報提供している。	事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を運営推進会議の際に地域の人に目も医療や福祉について情報提供している。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回実施し、現状のグループホーム北淡の取り組みや施設行事の内容などを報告し意見交換などを行っている	2か月に1回実施の運営推進会議でグループホーム北淡の取り組みや施設行事の内容などを報告し意見交換などをおこないそこでの意見をサービス向上に活かしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議へ参加し事業所取り組みや意見交換や稼働状況などについて説明し協力関係を築くよう努めている	毎月開催の地域ケア会議に参加し事業代の取り組みや元旦の地震事例を参考に意見交換を行ったりして協力関係を築くように取り組んでいる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準」における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の設置し勉強会の実施している。現状は離脱のリスクも高く玄関等は手動にて対応中。利用者様の希望があり他の階などへ行く際職員の開閉で自己にてエレベーターなどの操作し移動できるように行っている。マイジカルロック、ドラッグロック、スピーチロックを職員が理解し意識するよう取り組んでいる	身体拘束委員会の設置し年2回勉強会を実施している。現状は離脱のリスクも高く玄関等は手動にて対応している。また利用者の希望で他の階に行く場合職員が開閉し自己でエレベーターを操作し移動できるようにしている。加えてマイジカルロック、ドラッグロック、スピーチロックを職員が理解し意識するよう取り組んでいる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底	虐待防止委員会の設置し勉強会の実施。	年2回虐待防止委員会を設置し勉強会を実施

自己 第三者	項目	外部評価		次のステップに向けて期待したい内容
		自己評価 実践状況	実践状況	
	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	地域ケア会議のなどで有無の確認し施設内での研修などを通し虐待に対して意識を高めている	施設虐待をシナイクエアに組み込み地域ケア会議等で有無の確認し、施設内での研修等を通し虐待に対しての意識を高めている。	

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見制度について勉強会の実施。	現在成年後見制度の活用者はいないが成年後見制度についての勉強会をじっししている。		
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結・解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約時には十分に説明を行い、改定・契約の変更の際は家族構范に案内文を送っている。又、疑問点などあれば面会時は電話にて対応を行っている	契約の締結や解約時には十分に説明し、改定・契約の変更の際は家族構范に案内文を送り、疑問点があれば、面会時に伝エアで対応し、又看取りの説明もしている。		
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月施設の広報誌作成し、グループホーム内の行事やレクリエーションといった活動を報告させて頂いています。	毎月施設の広報誌作成し、グループホーム内の行事やレクリエーション等の活動を報告し、又面会は予約制でふりとして、		
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロアリーダーを通し、月1回会議を開催し、会議を通して意見を反映している	各フロアリーダーを通し、月1回会議を開催し、コロナにかかった人がいたので職員への伝達方法等提案し、これらの意見を反映している。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の力量の把握・実績・勤務状況の把握し定期的に話し合いの場を設け、話しやすい職場環境にするよう努めている			
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップの為、内外部の研修に積極的に参加している			
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の研修会や島内の研修会へ参加している			

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	入所受付時にはご家族の意向を聞いています。入所前には必ず面談を行い、本人様にも要望等を聞いています。入所日より安心した生活が送れるように支援している			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている	面談時に家族の意向や入所前に施設見学を行い施設生活を少しでも不安のないよう努めている			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等がその時「まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に家族の意向をお聞きし、急ぎで入居施設を探している場合などはグループ内の介護施設の紹介も行っている			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立に向けた支援をするため、日常生活での掃除・食事のおほん拭きなどを一緒にすることにより、よりよい人間関係の構築を図る			
19	○本人を支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時・面会時など問題があつた際に電話などで家族様と話し合いをし問題点を一緒に考え、できる限り関係を断ち切らないよう面会や外出の依頼を行っている			
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活で大切にしてきた馴染みの場所について外出支援を利用し関係の継続支援に努めている	これまでの地域との関わるを継続していくため今までの延長線上であるよう支援に努めている。昔から利用している理髪店に行き続けられている利用者もいます。暮らししていた地域へドライブに出かけ継続的な交流ができるように働きかけしている。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介しコミュニケーションを図ったり、レクリエーションの場所へと誘ったりご利用者様同士が関わりあえるよう支援している			
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	疾患の悪化や体調不良などにより入院された利用者様へご家族様には必要に応じ連絡させて頂きフォローしている			

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションを大切にコミュニケーションの中で希望や要望などを現状の把握に努めている	本人様にとってどのように暮らす事が最良なのか日々の関わりの中で声を掛け、意向の把握に努めている。本人の今までをよく知っている人たちの意見を取り入れ「本人はどうか」の視点にたつて話し合っている。1年振り返り言葉アンケートでは、「笑」が第1位で選ばれました。		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活やその人らしい生活環境を家族様や相談員より情報の収集し生活環境を把握し施設サービスの参考ケア項目を して実施していく。			
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様本人の基盤・現在有する疾患・投薬内容・身体機能などを日々の生活の中から把握し現状の維持、向上に努めている			
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面談シート・看護・介護サマリーなどを入所前に職員への共有し、入所時に家族様の意向などの話をしサービス担当者会議を開催し介護計画を作成している	介護計画では、利用者視点にたつて本人を良く知る家族などの意向も反映し取り組んでいる。設定した期間での見直しはもちろん、栄養面や身体状況の変化など専門職の意見を取り入れた担当会議を開催し介護計画を作成している。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・ケアの実施等電子カルテに入力を行い、問題行動や身体の変化についても入力し、職員間での情報共有している			
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	キーパーソンが島外の方が多く、基本受診等は家族様対応をお願いしているが、難しい場合は柔軟に対応を行っている。			

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状利用者様が地域資源の活用にまでは至っておらず、商店、理髪店の利用に留まっている。			
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と家族様の関係を築くためにできる限り家族様へ受診して頂いている。家族様が受診困難な場合が職員が受診介助し、結果を家族様へ連絡している。	入居時には1人ひとりの利用前の受診状況を把握し本人や家族の希望する医療機関や医師で受診できるように支援している。月2～3回往診医による診察を受けていただく。専門受診は遠方で困難な場合は職員が対応している。		
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師時に相談・観察の実施。身体状況やバイタルサインの異常があれば協力病院へと連絡し受診や観察に対応している。			
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は協力病院と連携を図り情報交換し、本人様ご家族様の意向を大切にし入退院までの支援している	入院する際には、家族等と相談しながら本人等の情報など介護サマリーを提供している。なるべく混乱・混乱が少ないよう、本人の普段の状況や特徴などに注意してほしい事項について記載している。訪問看護師を通し医師との連携もスムーズに行われている。		
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療行為が必要になった場合の説明をさせて頂いている。採血結果の状況において、Dr・Ns往診時に重度化する可能性のある場合はその都度ご連絡させて頂いている。	契約時には、「重度(看取り)に関する指針」をもとに事業所が対応し得るケアについて説明をしている。医療処置が必要になれば病院に転院していただくなど早い段階から説明を行う。医師、看護師と連携を取りながら納得のいく最期を迎えられるよう意思確認しながら取り組んでいる。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にデモ機を用いてAED使用し、急変時対応マニュアルに沿って実技を行っている			
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施、消防署や地域の消防団の方を招き消防訓練を行ったりと協力体制を築いている。	年2回の消防訓練の実施、消防署や地域の消防団の方を招き消防訓練を行い施設現状を知ってもらう場とする等協力体制を築いている。		

自己 者三	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18) ○一人ひとりの尊重とケアバイザーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやケアバイザーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室の入室時など声を掛け本人の了解を得た上でケアを実施するように心がけている。言葉かけには本人を尊重し職員全員が十分に配慮するようにしている	援助が必要な時も、本人の気持ちや力を見立てながら自立支援の視点で取り組んでいる。声かけなど本人の誇りを傷つけないかを職員間で話し合い検討している。各フロアや朝ミーティングを活用し日常的な確認と改善に向け職員全員で取り組んでいる。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の利用者様との関わりで、コミュニケーションを大切し、利用者様がその思いなどを発言出来る様に関係性をふかめる			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活をベースとして、食生活以外は個々で自由に過ごして頂いています。			
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物支援の際に、自分好みの衣服を購入し、自己管理の出来ている利用者様には日々好みの衣服を着用していただいている			
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	病状・疾患も含め利用者様が嗜好する食べ物や禁忌食物について把握し、食意向上的ために、嗜好調査を行い、希望に添えるよう可能な限り提供している。 準備・片付けは身体状況により可能な範囲で行っている	食事は暮らし全体の中で重要な位置にあり月初めに栄養士による栄養状態等の把握を行い栄養バランスにとても配慮している。また個々の力を活かして洗いや片づけなど職員とともに行います。職員のアイデアでおせち料理をお重に詰め提供し高評価を得た。		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日分の食事摂取量・水分摂取量チェックシートにて記載している。月1回管理栄養士によるBMI・アルブミン等の栄養状態を把握している。			
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じたケアをしている	食前に水分摂取や嚥下体操を実施し誤嚥を予防し、食後には自衛・義歯と利用者様にあつた口腔ケアの実施。 口腔ケアが出来ない方は口腔清拭を行い口腔内の清潔保持に努めている。			

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力に応じて、自己にてパット交換や残存機能を生かした排泄支援を行い、自立に向けた取り組みを行っている	トイレでの排泄を可能にするために、「行きたくない」とイレに行くことができる」よう、排泄チェック表や本人の生活リズムにそった支援を展開している。一人ひとりの排泄時の状況を把握し困難な要因について丁寧にチェックし個別の排泄支援に取り組んでいる。		
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として牛乳やヨーグルトの提供をしている。それでも排便が困難の利用者様には医師の診療を受け下剤を投与する。余暇時間に排便体操を実施している			
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しくめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日決まっているが、利用者様のその日の体調や、精神状態など配慮し、午後や翌日などに変更し、また不穏など拒否のある時は時間を置き声掛けを行い入浴を促している。午後など希望があれば希望に沿って入浴して頂いている。	その日の希望を聞きながら一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて週3回入っていたり、入浴を拒む方については無理強いをせずに対応や声掛けなど工夫し柔軟に対応している。車いすの方にはチェア入浴を活用し個々の状態に合わせて入浴支援を行っている。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様個々の生活リズムもあるが、日中・夜とメリハリをつけている。日中は休息したい時には休息して頂く体制を確保している。			
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の病状に合わせて、投薬内容があり、誤薬がないように、チェックシートを作成し、複数人数でのチェックを行い管理している。利用者様の能力に応じて湿布・軟膏などは自己管理してもらっている。			
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の日常生活の中で利用者様の身体機能・認知機能などに配慮し、掃除・洗濯物たため・介護者介入し本人にあつた役割・生活リハビリテーションを取り入れている。			
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援として、個別に調査し日程を決めスーパード・理髪店・ボライアノ・花見・家族様の了承の元、家族様の仕事(コンビニ)・職員同伴で、一時自宅へ帰ったり利用者様の希望に添えるよう支援している。	3ヶ月の1回実施される外出支援では、本人のその時々々の状況や希望に応じて実現できるように実施している。事前にアンケートを行い個々の行きたいところを聞き取ります。理髪店に行き続けておられる方や以前の住み慣れた地域へ職員と一緒に出かけたりしている。天候の良い時期には近隣への散歩を再開します		
50	○お金の所持や使うことの支援	本人様・家族様の了解を得て自己管理分と			

自己	第三者	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況	
		職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金と分けて、小型耐久金庫にて保管している。		次のステップに向けて期待したい内容

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話の設置はないが、利用者様が希望すれば対応している。手紙等のやりとりも自由に行えるよう配慮している。			次のステップに向けて期待したい内容
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとつて不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には温度設定の表示や不快な物音・光などはカーテンなどで配慮している。廊下や食堂には季節感を味わえる掲示物を貼り視覚的に分かるように配慮している。海側のホールやピロチエにソファを設置し景色を眺められる様配慮している。	共有の空間には温度設定の表示や不快な物音・光などはカーテンなどで配慮し又廊下や食堂には季節感を得的掲示物を張って視覚でわかるように配慮している。又海側のホッやピロチエにソファを設置し景色を眺められる様配慮している。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で一人海や景色を眺める利用者や利用者が複数でソファ等に座わり談話出来る様にソファやテーブルを設置している。			
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の馴染みのある物、使い慣れた家具などの持ち込みは可能。以前と同じように居心地の良い生活を送って頂くよう配慮している。	利用者様の馴染みのある物、使い慣れた家具などの持ち込みを可能とし、居心地の良い生活を送って頂くよう工夫している。		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ゆったりとした個室・広い廊下・床材は転倒時の衝撃吸収床材として安全を確保している。転倒リスクについて個別に把握し対応を行っている。日常生活で洗濯物を畳んだり、カーテンを開めるなど、一人一人が出来る事を増やし工夫している。			